

「ひとりで頑張らなくても」

(マルコの福音書2章1節～12節)

「イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に、子よ。あなたの罪は赦されましたと言われた」(2:5)

仲森文穂

今日のメッセージ要旨

○人々が病気の人を屋根を破って吊り降ろした時、イエス様は「彼らの信仰を見て、中風の人に、子よ、あなたの罪は赦されました」と、言われました。普通の人には、器物損壊、住居不法侵入にしか見えません。愛情いっぱいな彼らは、心から信じてイエス様にすがりました。愛して信じて1セット。イエス様は、愛と信仰とを、彼らの中にご覧になったのです。彼らがしたのは「執り成しの祈り」です。私たちは家族や周りの人たちを思い、日々祈ります。両親の健康が守られるように、子どもや孫たちの前途が祝されるように、家族が信仰に導かれますように、被災地の人々が立ち上がれますように、戦争が早く終わりますように、と祈ります。イエス様はそんな祈りを必ずいつの日か叶えてくださる。何と、嬉しいことでしょう。一人で祈るのもいいですが、3、4人で祈るのも力がありますね。自分ひとりで頑張らなくてもいいのです。私もよく言われます。「先生のためにいつも祈ってますよ」って。ありがたいと思いますね。自分も日々祈られているんです。だから、何とか務めが果たせるのです。

○イエス様は中風の人に「子よ、あなたの罪は赦された」と言われました。当時は因果応報の考えが普通で、病気も、①悪霊にとりつかれたから。②神に見捨てられたから。③罪を犯したから、と考えるのが常でした。旧約聖書のヨブも、3人の友人からそんな風に責められ、苦しみましたね。イエス様は、病気の癒しと共に、因果応報による偏見から、病気の人を解放するために罪の赦しを宣言されました。ところが、これを聞いて「神をけがしている。神おひとりのほか、だれが罪を赦すことができようか」と、思った人々がいました。人が癒されるのを共に喜ぶどころか、規則に反していると思う、実に可哀想な人たちです。神を汚しているなんて、勝手な思い込みに過ぎません。規則にとらわれないイエス様の愛は、自然に湧き出る泉のように人々に注がれます。特に、神様の恵みから遠いとレッテルを貼られた人々が、イエス様の愛にふれて生まれ変わっていきました。

罪の赦しは、イエス様による全人治療です。これを受けると、病の床にも様様の恵みを感じるようになるから不思議です。ドクターコトーのドラマのせりふに、「病気のことはお医者さんに、命のことは神さまにお任せじゃあ」とありました。命のことは神様にお任せとは、心に残る言葉ではないでしょうか。

終わりに、12節以下を見ましょう。「あなたに言う。起きなさい。寝床をたんで、家に帰りなさい」と、あります。このように、イエス様と出会って新しい出発をする人々が大勢出るように、私たちも粘り強く、とりなしの祈りを祈っていきたいですね。一人で頑張るものではありません。イエス様も助けてくださいますし、知らない内に祈ってくれている信仰の友もいます。お互いに支え、支えられて、家族のため、友人知人のため、また執り成しを必要としている方々を思い、祈っていきましょう。